

センシング先端技術動向調査報告会 ー平成23年度「センシング技術専門委員会」活動成果報告ー

■主 催：センシング技術専門委員会

■担当部署：知的基盤部

■参加者数：約50名

概 要

センシング技術専門委員会（委員長：本多敏氏 慶應義塾大学）では、電子工業の重要な基盤技術として情報技術や通信技術と結びついて今後益々発展していくセンシング技術について、利用促進に必要な市場動向や技術動向の調査を行い、IT・エレクトロニクス産業のさらなる発展に寄与すべく活動を行っておりますが、本年も23年度の1年間に実施した各分科会の調査について広く紹介することとし、報告会を開催しました。

講演では、慶應義塾大学の本多委員長より、小型センシングデバイスを用いて生活状況や健康データを管理し、ケアへ活用するパーソナル・ヘルスケアにおける無線方式の検討を含め、調査内容などについてご報告いただきました。

また、豊橋技術科学大学の澤田委員長からは、植物工場におけるセンサ動向について、大規模施設園芸（加太菜園）訪問や、鉄道でのセンシングデバイスの利用状況等の紹介がございました。



東京工業大学の中本委員長からは、自動車、アミューズメント（ロボット）、オートメーション、住宅、医療・健康の各テーマを、5感（視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚、その他感覚）を軸としてまとめたロードマップ調査や、産学連携状況調査についてご報告いただきました。

最後に、特別講演として、富士通（株）の渡邊正宏氏に、富士通が開発するスーパーコンピュータについて、またこのコンピュータ上で実行するコンピュータシミュレーションの各種事例を通じ、スーパーコンピュータで何ができるのか、その果たす役割について「スーパーコンピュータが拓く未来」と題して、ご講演いただきました。

報告会は、センシング技術専門委員会幹事の肥塚哲男氏（（株）富士通研究所）の司会・進行により、安藤委員長（東京大学／前委員長）の開会挨拶の後、以下の内容で進められました。

プログラム

○「次世代センシングソリューション技術」

本多 敏 氏

（慶応義塾大学／次世代センシングソリューション技術分科会委員長）

○「マルチモーダルセンサ・デバイス技術」

澤田和明 氏

（豊橋技術科学大学／マルチモーダルセンサ・デバイス技術分科会委員長）

○「センシング技術実用化ロードマップ調査 –感性センシングロードマップ調査及びセンサ開発の産学連携–」

中本高道 氏

（東京工業大学／センシング技術実用化ロードマップ調査分科会委員長）

○特別講演「スーパーコンピュータが拓く未来」

渡邊正宏 氏

（富士通（株））